

保守性を高めるアプリケーション設計の勘所と留意点【オンライン受講可】

(4121007)

DX時代では、基幹系アプリケーションの保守もスピーディな対応が求められています。より迅速、かつ、正確なリリースを繰り返していくためには、アプリケーションのブラック・ボックス状態を解消し、保守性を高める必要があります。本講座は、現場視点の事例を通じて「ブラック・ボックスではない状態」を理解し、アプリケーションの設計・保守に必須の具体的な勘所と留意点を習得する機会を提供します。これによって、スピーディーなリリースを妨げる最大の要因である変更影響と、回帰テストの最小化された高度な保守性を備えるアプリケーション設計を実現することができます。

開催日時	2021年10月7日(木) 10:00-17:00
カテゴリー	IS導入（構築）・IS保守 専門スキル
講師	天羽正道 氏 (フリーランスITアーキテクト) 元 日本アイ・ビー・エム株式会社 エクゼクティブアーキテクト。 チーフアーキテクトとして様々な環境でのビジネスアプリケーションの開発をリード、構想を支援。
参加費	J U A S 会員/ITC : 33,800円 一般 : 43,000円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (日本橋堀留町2丁目ビル2階)
対象	保守性の向上に関心のある方 受講前提条件 : アプリケーション開発の経験を持っていること 中級
開催形式	講義、グループ演習
定員	20名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

【選べる受講形態】

A. 会場にてご参加 : **【Co-lab-po (2階会議室) 施設利用にあたっての取り組み】**

B. オンラインにてご参加 : **【セミナーのオンライン受講について】**

■テキスト

A. 会場にてご参加 : 当日配布

B. オンラインにてご参加 : 開催7日前を目途に発送 (お申込時に送付先の入力をお願いします)

※開催7日前から開催前日までにお申込の場合、テキストの送付は開催後になることがあります。ご了承ください。

1 保守性の価値

- ・企業がITに求めるもの
- ・保守性の重要性

2 保守性とは何か

- ・保守性向上の阻害要因
- ・構造
- ・テスト
- ・その他の施策

3 良い構造、悪い構造

- ・導出のタイミング
- ・引数のスコープ

- ・分岐のタイミング
- ・共通モジュール
- ・検査のタイミング
- ・モジュール分割
- ・データの正規化・非正規化
- ・エンティティの分割
- ・エンティティの属性付与
- ・補足) 主キーの選択

4 分析・設計の手法の適用上の考慮点

- ・データモデリング
- ・非機能要件
- ・性能対応

5 テスト容易性

- ・テスト容易性とは
- ・環境関連
- ・アプリケーション資源
- ・データとアプリの準備
- ・アプリの実行条件
- ・テストの再利用
- ・問題分析
- ・機械化・自動化など

6 保守性の改善

- ・保守性改善の手法
- ・リファクタリング
- ・最適影響法
- ・大規模リファクタリングの考え方

7 保守性の周辺トピック

- ・保守性についての役割
- ・プロジェクトオーナー
- ・利用者
- ・アーキテクト
- ・開発者
- ・インフラ担当
- ・プロジェクトマネージャー
- ・要求の扱い
- ・アーキテクチャー
- ・成果物と点検
- ・環境
- ・エンジニアリング